

# 田川市共生社会ホストタウン活動計画(相手国：ドイツ、ベラルーシ)

ドイツ及びベラルーシの車いすフェンシングチームを迎える東京2020パラリンピック競技大会を契機として、産官学民一体となったハード・ソフト両面のバリアフリーを実践することにより、障がい者スポーツ推進都市『福祉のまち たがわ』を目指す。

## ハード・ソフト両面のバリアフリーの実践

### ハード面 (ユニバーサルデザインの街づくり)

- 車いす対応型のトレーラーハウス合宿所の整備
  - ・ 東京大会以降は、障がい者スポーツ大会や練習、スポーツ少年団の合宿等で利活用予定
  - ・ 財源は、企業等からの企業版ふるさと納税等による寄付を活用予定
  - ・ 緊急時の避難場所、他地域での災害支援等にも活用可能
  - ・ 配置後のレイアウト変更可能
- 田川市総合体育館のバリアフリー化
  - ・ 段差解消、トイレ・シャワー室・自動ドア改修、エレベーター設置等



### ソフト面 (心のバリアフリー)

- 「心のバリアフリー研修」の定期開催
  - ・ 講演や車いす体験等を実施
  - ・ 経済界協議会や、社会福祉協議会、商工会議所地域住民と連携して、産官学民一体となった取組みに拡大
- 全小学校でブラインドサッカー研修会の開催
- 医療・福祉の専門大学「福岡県立大学」との連携
  - ・ 学生・留学生等による通訳や福祉的サポート
- バリアフリーマップの作製
  - ・ 障がい者ととともに駅周辺の街歩き・バリアフリー点検を行い、障がい者に有益なマップを作製



障がい者スポーツ推進都市「福祉のまち たがわ」の実現

